

(様式2-2)

令和6年度「明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト」事業 成果報告書

1 指定校・指定校群 (高松市立高松第一小学校)

2 実施の内容

- 学校ワクワクプロジェクト (きずなづくり)
 - 小中合同行事、小中の交流活動、期別集会等、学年を超えた縦のつながりを育む。
 - ・ 4月、5月、9年生が入学後の1年生の学校生活や運動会のサポートを行った。
(ふたばサポートプロジェクト)
 - ・ 6月、運動会では、応援合戦、児童生徒会種目など1年生から9年生がクラス単位で縦割り活動を行った。
 - ・ 通年、中学生が小学生に掃除の仕方を教え、一緒にトイレ掃除を行う。(おそうじマイスター)
 - ・ 6月、中学生が小学校低学年の児童に読み聞かせを行った。
 - ・ 年間3回、1年生から4年生(第1期)が各学年2、3人、10人程度の小グループを作り、4年生が中心となって縦割り活動を行った。(期別集会)
 - ・ 年間3回、集会委員会が中心となり、全校生でふれあい遊びができる集会を行った。
- 学校いじめゼロプロジェクト (なかまづくり)
 - 高松第一学園の校歌、学園人権宣言を意識させ、「なかま委員」を核とした、横のつながりを育む。
 - ・ 各学期、学級2名ずつがなかま委員として選ばれ、学級のきずなづくりを先導したり、なかまづくりを発信したりした。
 - ・ 2学期は学園全体として「人権を学ぶ学期」と位置づけ、教育活動を行った。また、高松第一学園の「人権宣言」をもとに、小学生が具体的な行動目標を考えたものを「なかま宣言」として、学園全体に発信した。
 - ・ 夏季休業中「いじめゼロ子どもサミット2025セミナー」に児童11名が参加し「I LOVE ME」をテーマに話しあった。そのことを校内に広めようと9月初めに「なかまづくり集会」を行った。
 - ・ 「スマイルプロジェクト」として、友達の素敵な言動や素晴らしいところを書いた手紙を、放送委員が、昼の放送で紹介した。
- 学校にここにこプロジェクト (居場所づくり)
 - スクールカウンセラー等の効果的な活用で心の安定を図り、安心できる環境を作る。
 - ・ 学級に慣れてきた6月、長期休業日明けの9月と1月の年3回、「聞かせてねアンケート」を行い、児童の現状や変化に気づけるような体制をとった。また、同じ時期、放課後に学級担任と個別で面談を行う日を設定した。
 - ・ 6月、5・6年生全員とスクールカウンセラーが3分程度話をする「全員面談」を行い、スクールカウンセラーとの顔つなぎを行った。
 - ・ 9月、スクールカウンセラーが、3・4・5・6年生に1時間の「SOSの出し方授業」を学年ごとに行った。
 - ・ 10月、学校保健委員会でスクールカウンセラーが「イライラとの付き合い方を知ろう」というテーマで講演を行った。

3 成果

(1) 児童生徒の自発的・主体的な活動の様子

○ 学校ワクワクプロジェクト

小学生と中学生、小学校全校生、期別での交流等いろいろな方法で縦のつながりを育めるように仕掛けた。そのことで、上学年は下学年のことを思いやり、下学年は上学年の姿に学び懂れるような関係性が作れている。写真のように、運動会の全校種目では、上学年の子が下学年の子を楽しませてあげようと、拾ったボールを率先して渡す姿がみられた。

楽しくふれあえる活動を通して、学校が楽しい場になると共に、自己有用感を高められる場ともなっている。



【写真①】運動会全校種目でペアの下級生にボールを渡す中学生

○ 学校いじめゼロプロジェクト

全校生が集まり「なかまづくり集会」でいじめゼロについて考えることから「人権を学ぶ学期」はスタートした。いろいろな集会のはじめには、なかま委員が「なかま宣言」を読みあげ、会への趣旨を意識できるようにした。また、様々な角度から一人一人が大切にされるべきであることを考える機会をもつことにより、人権意識を高めていた。「いじめ予防プログラムトリプルチェンジ」の活用もあってか、クラスで困った様子の児童を見かけた子が、「いじめているのでもいじめられているのでもない私たちが声をあげなければ！」と相談しにくることもあった。



【写真②】「いじめゼロ子どもサミット2025 セミナー」と「なかま宣言」を全校生に紹介した「なかまづくり集会」

○ 学校にこここプロジェクト

スクールカウンセラーの配当時間の増加により、全員面談、SOSの出し方授業を行った。そのことより、スクールカウンセラーと面談したいという児童の希望が増えた。一人3分程度の全員面談でも、2割程度の児童は、スクールカウンセラーに相談をした。思春期の入り口である小学校高学年には、スクールカウンセラーは重要な役割を果たすことがうかがえる。



【写真③】スクールカウンセラーによる5・6年生全員面談の様子

(2) 総括

○ 令和5年度、30日以上の不登校傾向児童7名中3名は令和6年度は学校に来ている。

○ 令和5年度、別室登校していた2名は、令和6年度は学級に入り、トラブルなく過ごしている。

○ 令和5年度、全体の欠席率2.3% → 令和6年度、全体の欠席率1.6%

○ 令和6年度12月末保護者アンケート

「お子さんは学校生活が楽しいと思っていますか」91.4% (令和5年度より2.4%UP) 「学校はいいじめのない学校や学級づくりに努力していると思いますか」83.4% (令和5年度より21.0%UP)

○ 令和6年度12月末児童アンケート

「学校は楽しい」90.5%、「なかのよい友達がいる」97.5% 「困ったこと等があれば気軽に相談できる人がいる」4年生以上92.8% (令和5年度より3.7%UP)

● 昨年度より継続の不登校傾向児、新たな不登校傾向児へのアプローチを考える。

● すべての教職員が本教育活動の価値を理解でき、浸透・継続できるようにする必要がある。